

## 久屋大通（北・テレビ塔エリア）事業計画検討調査

○（調査の背景・目的）平成39年度のリニア中央新幹線開業を見据え、栄地区を名古屋大都市圏をけん引するような国際競争力を有する魅力と活力にあふれた新たな交流空間へと再生していくことを目的に、平成25年6月に「栄地区グランドビジョン～さかえ魅力向上方針～」を策定・公表したところである。そのため、栄のシンボリックな空間である久屋大通の北・テレビ塔エリアにおける公共施設及び民間施設の一体的な整備を念頭に置いた整備計画の検討調査である。

## 調査成果

## ①空間活用の一体化

沿道と公園との距離感を縮め、南北の周遊性向上を図るため、公園側に訪れやすくする広場や園路の整備、東西を連絡する道路の公園化などにより、公園の拡大を実施

## ②地上・地下の連続性向上

来訪者の利便性向上や、新たな人の流れを誘導するため、駅改札近傍において、エレベーターやエスカレーターなどの昇降機能を集約し、地上と地下をつなぐ拠点として整備

## ③魅力的な集客施設の導入

テレビ塔のシンボリック性を活かした、多くの人々を惹きつける文化・交流、飲食、物販などの施設や、安らぎの空間に調和したカフェなどの便益施設を導入

## ④使いやすいイベント空間や憩いの空間の整備

久屋大通公園駐車場などのスペースを様々なイベントに活用しやすい交流の広場や開放的な憩いの広場として整備

## ⑤良好な樹木環境の整備

良好な緑の育成による明るく見通しのよい景観の創出を図るため、公園樹木や街路樹の間伐や植樹等の改良を実施

## ⑥ユニバーサルデザインの視点による人にやさしい空間の整備

人にやさしく利用しやすい空間づくりのため、主要な動線となる園路の高低差緩和や、路面改良を実施

高齢者や子供連れなどの上下移動のバリアを解消するため、駅改札近傍において、地上部と地下空間をつなぐ昇降設備を設置

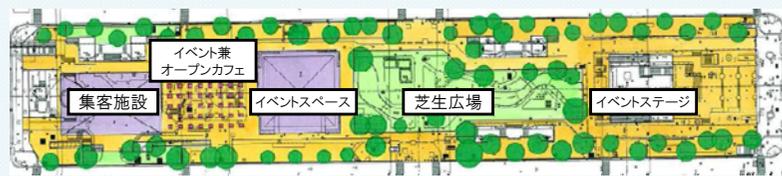
## ⑦広域避難場所としての防災機能強化

災害時には避難者を受け入れるオープンスペースとして広場を整備するとともに、避難者支援に必要な設備を設置・避難しやすい公園として、公園を拡大し、アクセシビリティを向上

## 基本計画（素案）

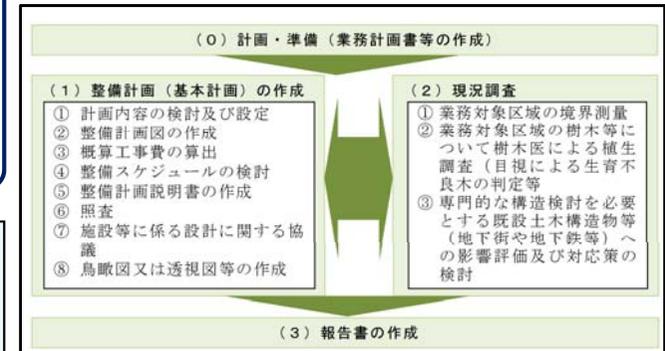


&lt;北エリア&gt;



&lt;テレビ塔エリア&gt;

## (調査の手順)



## 基盤整備の見込み・方向性

- ・ひと塊の空間
- ・にぎわいや憩いの空間
- ・歩いて楽しい空間
- ・自動車利用者と歩行者との両立

## &lt;スケジュール&gt;

平成27年度：実施方針の公表

平成28年度：公募資料の公表、事業予定者の選定

## 今後の課題

・樹木環境の改善に係る市民の合意形成  
樹木環境の見直しに関しては、樹木の育成や保全の必要性について、市民の合意形成を図る必要がある。

## ・公園内の建築物の規模等

久屋大通公園は、都心に立地する極めて特殊な公園という位置付けから、利便施設及び集客施設については、建ぺい率の上限が変更できないかなど検討する必要がある。

## ・近接する民間施設、地下施設との調整

久屋大通公園の公園部と地下部に位置する各施設との調整を十分に図り、老朽化した施設に関しては公園整備と連携した整備の可能性を模索するなど、一体的な空間整備が求められている。

久屋大通（北・テレビ塔エリア）事業計画検討調査			
調査主体	名古屋市		
対象地域	愛知県名古屋市	対象となる 基盤整備分野	道路、都市公園

1. 調査の背景と目的

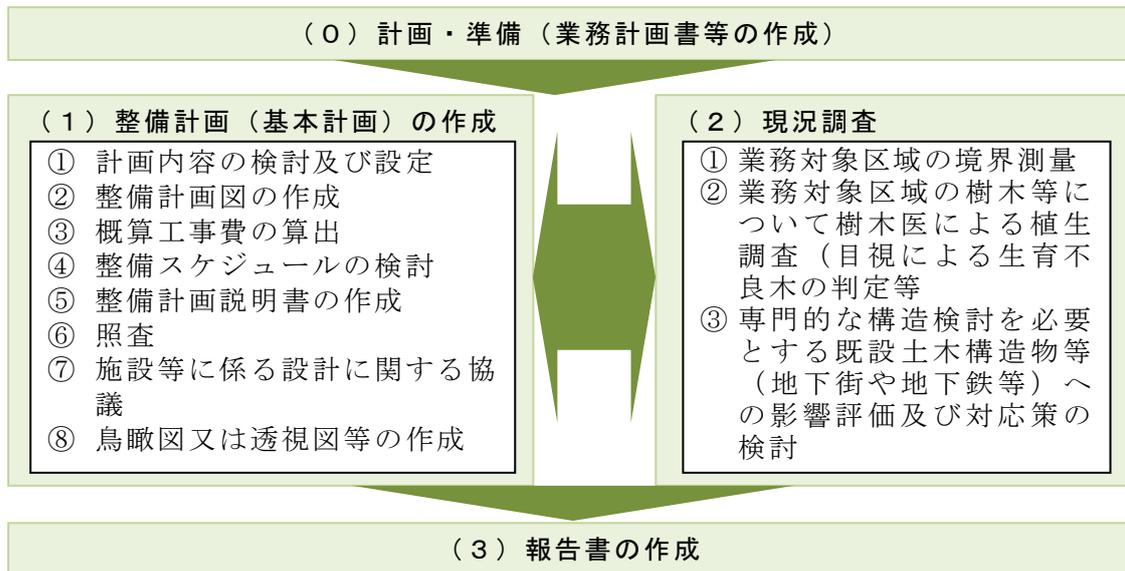
平成39年度のリニア中央新幹線開業を見据え、栄地区を名古屋大都市圏をけん引するような国際競争力を有する魅力と活力にあふれた新たな交流空間へと再生していくことを目的に、平成25年6月に「栄地区グランドビジョン～さかえ魅力向上方針～」を策定・公表したところである。

そのため、栄のシンボリックな空間である久屋大通の北・テレビ塔エリアにおける公共施設及び民間施設の一体的な整備を念頭に置いた整備計画の検討調査である。

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

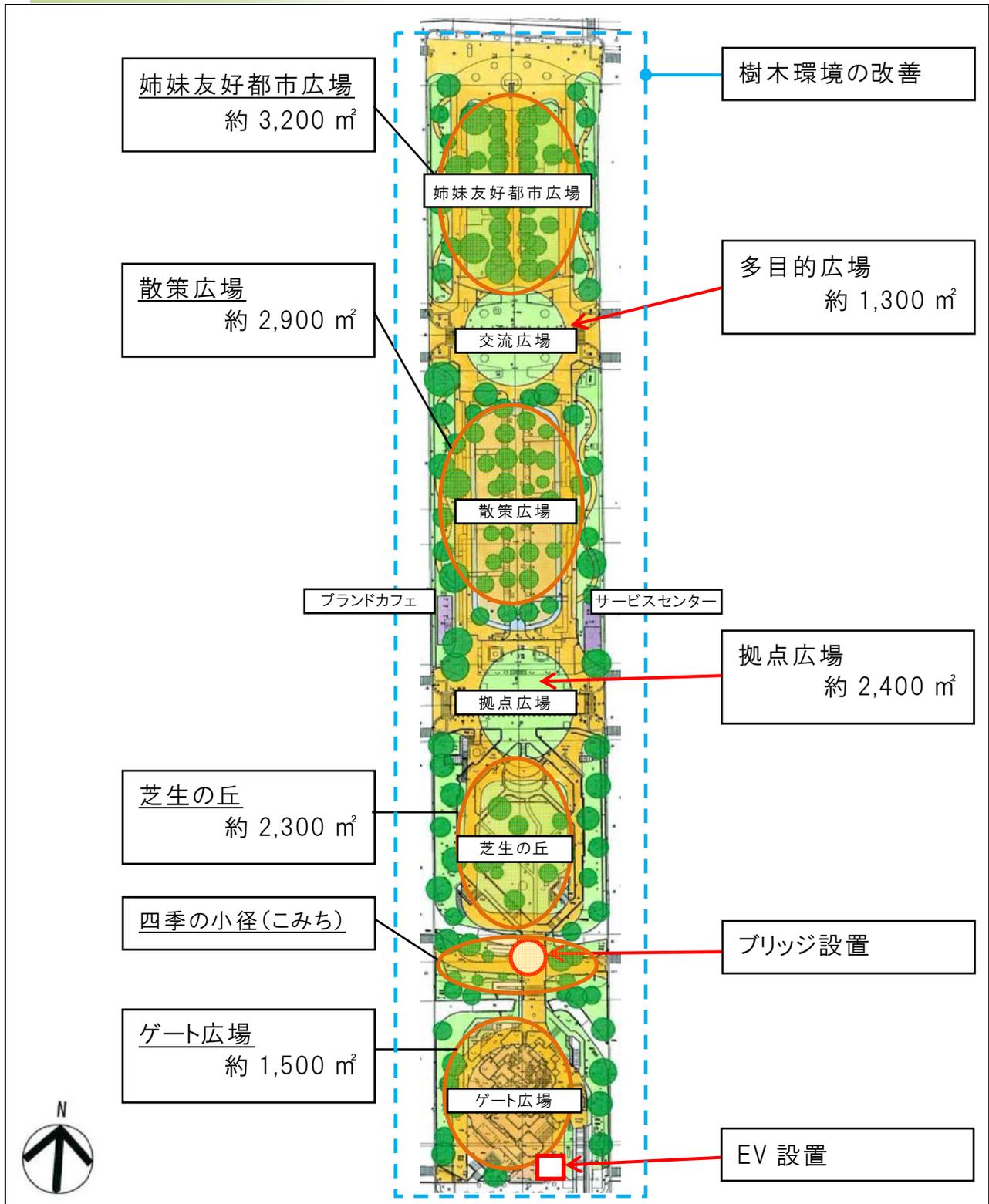
以下に調査の概要と手順を示す。



(2) 調査結果

基本計画（素案）

<北エリア>



## 1) 姉妹友好都市広場

現在、公園内に設置されている姉妹友好都市から寄贈を受けたモニュメントやオブジェ等を、北エリアの先北端に移設・集約することで、国際交流の拠点となる広場空間を整備すると共に、北に近接する名古屋市公館の国際交流展示室や名古屋城を中核とする名城エリア、東に広がる文化のみちエリアと連携した活動拠点を目指す。

## 2) 多目的広場

沿道と公園との一体的な賑わいを創出する目的で、沿道からのアクセス性を向上させると共に、多目的な利用が可能となる広場空間を整備する。

## 3) 散策広場

長年、市民に親しまれている中央のケヤキ並木の景観を残しつつ、木々の間を散策できる園路や水景施設の整備を行う。

## 4) 拠点広場

ブランドカフェやサービスセンターを近接させることにより、北エリアにおける東西南北への人の往来の中心や地域住民の活動の拠点となる広場空間を整備する。

## 5) 芝生の丘

見晴らしの良い芝生広場を整備することにより、家族連れなどが楽しめる空間を整備する。

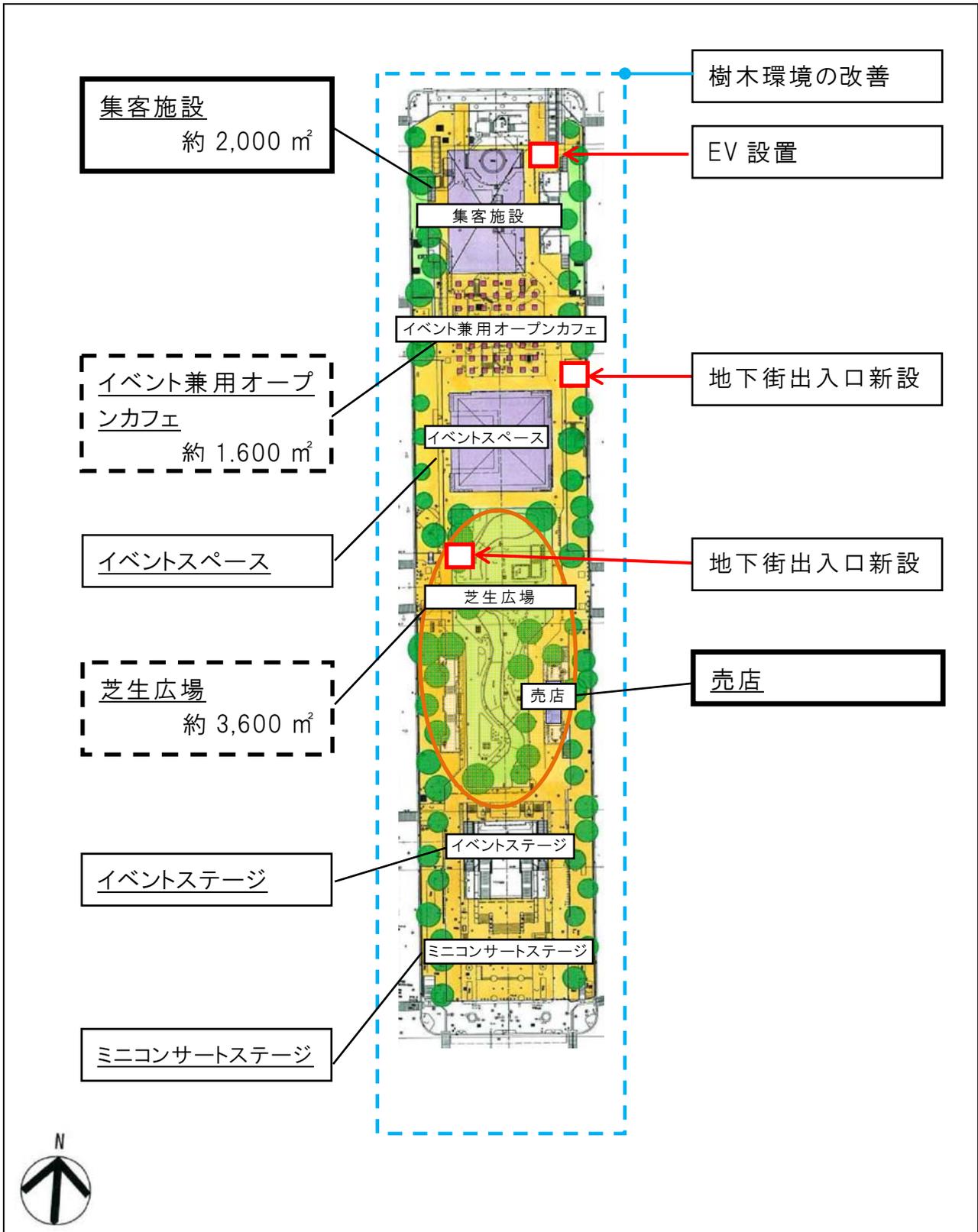
## 6) 四季の小径（こみち）

桜や市民参加型の花壇を設置することにより、四季の移り変わりを体感できる空間を整備する。

## 7) ゲート広場

鉄道駅（地下鉄久屋大通公園駅）から北エリアにアクセスする際のゲートゾーンとして、またテレビ塔エリアで開催するイベントと一体的に利用可能な広場を整備する。

<テレビ塔エリア>



**1) 集客施設（※位置、施設規模ともに、民間事業者の提案を求める。）**

栄地区のシンボルであるテレビ塔近傍に立地していることを最大限に活かした飲食施設などの集客施設を民間事業者の提案で設置することにより、そこでしか味わえないプレミアム感のある空間づくりを目指す。

**2) イベント兼用オープンカフェ（※位置については、民間事業者の提案を求める。）**

可動式のテーブルやベンチを設置することにより、周辺のイベントに対応可能なフレキシブルな空間を整備する。

**3) イベントスペース**

名古屋テレビ塔の真下に、全天候型のイベント空間を整備することで、テレビ塔エリアの賑わいの拠点化を目指す。

**4) 芝生広場（※位置については、民間事業者の提案を求める。）**

多目的かつ開放的な芝生広場を設けることで、都心の中心でゆったりくつろげる贅沢な空間を確保する。

**5) 売店（※位置、施設規模ともに、民間事業者の提案を求める。）**

キオスクなど公園内でちょっとした買い物ができる施設を整備する。

**6) イベントステージ、ミニコンサートステージ**

もちの木広場を、イベントが開催しやすい空間へと改修する。また近接して、ミニコンサートなどの開催が可能な空間も整備する。

### 3. 基盤整備の見込み・方向性

#### (1) 久屋大通の課題

##### ① 施設の老朽化・リニューアルの必要性

道路の中心に位置する久屋大通公園は、都市公園として供用が開始されてから40年余を経過し、歴史的にも文化的にも名古屋大都市圏を代表する公園である。一方で、施設の老朽化に伴い、現代のニーズに対応できない部分やにぎわいづくりの妨げになっている部分もあるため、リニューアルの必要性が高まっている。

##### ② にぎわいの創出

久屋大通公園を東西に横断する車道や、久屋大通の車道と公園の間に位置する段差のある植樹帯によって、沿道と公園とが物理的にも心理的にも離れたものとなっていると同時に、これらは、人の回遊性、にぎわいの連続性の面で大きな課題となっている。それらを解消するため、道路空間の再配分による公園と沿道との一体化、公園を分断している東西道路の廃止による南北の連続性の強化、また、地上にある公園・道路と地下空間の接続部の見直しによる地上と地下の連続性の向上などが求められている。

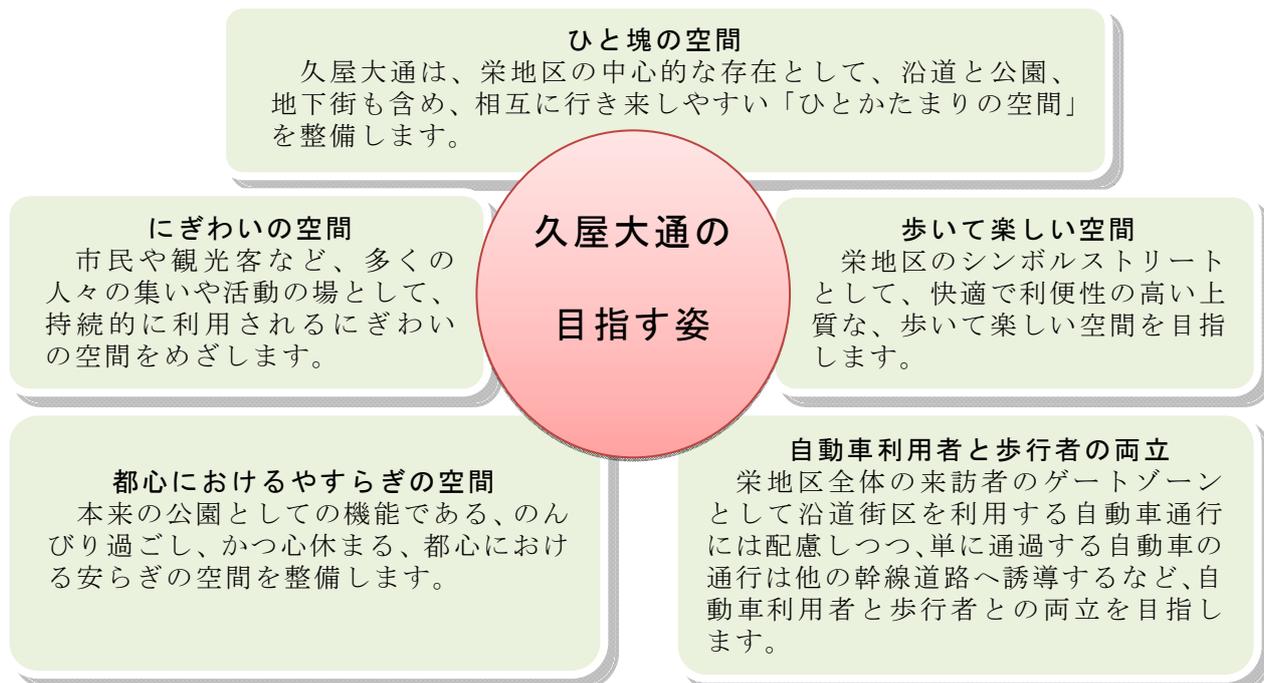
##### ③ 地元企業や組織等との連携

久屋大通の再整備に際しては、名古屋テレビ塔の耐震改修、地下空間の改善など、公園や道路だけでは解決できない課題も多く、関係する事業者と連携した取組みが必要不可欠である。さらに、市民、地域やNPOなどの各種団体、民間企業、名古屋市などが協働し、それぞれの役割分担の中で、現況施設の見直しや空間の再配分などのハード的な再整備や、イベントやボランティア活動などのにぎわい創出に係るソフト的な取り組みなど、公共空間の多様な利活用を推進する仕組みづくりが必要である。

##### ④ 民間事業者の積極的な参画の推進

利用者満足度のより高いサービスを提供するため、施設の整備・運営管理にあたっては、民間活力の導入により、民間事業者の参画の積極的な推進が必要である。

#### (2) 整備の考え方



久屋大通を再生によって、沿道の活性化や周辺環境の向上につながり、さらには、栄地区全体の魅力や価値を高めていくことにつながります。多くの人々が訪れやすい、生活しやすい場所としていく、「久屋大通の再生から始まるまちづくり」を行っていきます。

### (3) 整備基本方針

#### ① 空間活用の一体化

- ・沿道と公園との距離感を縮め、南北の周遊性向上を図るため、公園側に訪れやすくする広場や園路の整備、東西を連絡する道路の公園化などにより、公園の拡大を実施



#### ② 地上・地下の連続性向上

- ・来訪者の利便性向上や、新たな人の流れを誘導するため、駅改札近傍において、エレベーターやエスカレーターなどの昇降機能を集約し、地上と地下をつなぐ拠点として整備



#### ③ 魅力的な集客施設の導入

- ・テレビ塔のシンボル性を活かした、多くの人々を惹きつける文化・交流、飲食、物販などの施設や、安らぎの空間に調和したカフェなどの便益施設を導入



#### ④ 使いやすいイベント空間や憩いの空間の整備

- ・久屋大通公園駐車場などのスペースを、様々なイベントに活用しやすい交流の広場や、開放的な憩いの広場として整備



#### ⑤ 良好な樹木環境の整備

- ・良好な緑の育成による明るく見通しのよい景観の創出を図るため、公園樹木や街路樹の間伐や、植樹等の改良を実施



#### ⑥ ユニバーサルデザインの視点による人にやさしい空間の整備

- ・人にやさしく利用しやすい空間づくりのため、主要な動線となる園路の高低差緩和や、路面改良を実施
- ・高齢者や子供連れなどの上下移動のバリアを解消するため、駅改札近傍において、地上部と地下空間をつなぐ昇降設備を設置

#### ⑦ 広域避難場所としての防災機能強化

- ・災害時には避難者を受け入れるオープンスペースとして広場を整備するとともに、避難者支援に必要な設備を設置
- ・避難しやすい公園として、公園を拡大し、アクセス性を向上

#### (4) 配置機能のイメージ

##### 北エリアの配置機能のイメージ

基本コンセプト：緑彩（みどりいろどり）あふれる都心のオアシス

##### 豊富な緑を活かした空間づくり

都心部における緑豊かで良好な景観を将来に残し、樹木密度の適正な管理を行うことで、市民が安心して過ごすことのできる明るい園路や広場を整備する。



##### 都心の憩いや安らぎの空間を整備

高密度で人工的な都心の中に、多目的に利用できる開放的な芝生広場や地域参加型の花壇、憩いのための水景施設など、ゆったりと楽しめる空間を整備する。

##### テレビ塔エリアの配置機能のイメージ

基本コンセプト：民間活力を活かした都心のプレミアムスポット

##### 集客施設の設置

栄地区のシンボルであるテレビ塔に近接した飲食施設など、そこでしか味わえないプレミアム感のある施設の導入を、民間事業者の提案により設置する。



##### イベント空間の整備

質の高いイベントや飲食などが楽しめる使いやすい交流広場を整備すると共に、鉄道駅や地下街との連続性を高める。

## (5) スケジュール

平成 27 年度：実施方針の公表

平成 28 年度：公募資料の公表、事業予定者の選定

## 4. 今後の課題

### (1) 樹木環境の改善に係る市民の合意形成

平成 26 年 11 月に行われた久屋大通再生社会実験に会場した方々を対象に、「あなたは樹木環境の見直しについてどう思いますか？」とアンケートを実施したところ、「現状に満足しており、変える必要はない」と回答した人が全体の 48%と、久屋大通公園の現状の樹木のボリュームに関して市民の一定の満足度が得られた結果となる一方、本調査における樹木医による樹木調査結果からは、全ての樹木が健全な状態であるとは言い難く、将来的に渡りこのような都心の貴重な緑陰空間を維持・管理していくためには、樹木密度の適正化が重要であるものと思われる。

そのため、樹木の疎林化については、樹木の育成や保全の必要性について、市民の合意形成を図っていくことが必要不可欠である。

### (2) 公園内の建築物の規模等

現在の久屋大通公園における公園施設の建ぺい率(2%)に対応する建築物の建築可能規模は、約 0m<sup>2</sup>で、休憩施設・教育施設等を加えた際の建ぺい率(10%)で 269m<sup>2</sup>と、ほとんど使い切った状態となっている。

現在、整備を計画している便益施設(サービスセンター、売店など)や集客施設(レストラン等)は、現行法においては、2%物件であるため、制限を超えることになるが、久屋大通公園は、名古屋の都心に立地する観光・交流拠点の創出につながるような特殊な公園という位置付けであり、かつ今後、民間事業者の優れた提案を公募していくのにあたり、便益施設および集客施設についても、建ぺい率の上限が変更できないかなど検討していく必要がある。

### (3) 近接する民間施設、地下施設等との調整

久屋大通公園内には、名古屋都心部のランドマークとなっている名古屋テレビ塔が立地するほか、公園の地下部には地下街(セントラルパーク)や地下鉄(地下鉄桜通線・名城線・東山線、名鉄瀬戸線)、地下駐車場などが広がっており、複合的な空間を形成している。今後の整備に際しては、各施設と十分な調整を図りつつ、老朽化した施設に関しては連携した整備の可能性を模索するなど、一体的な空間整備が求められている。